

講義名	オ)専門基礎演習(人)			
担当教員	中川 典子			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限	授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

このコースでは、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンデマンド型授業を実施します。1年生での基礎的な学修を受けて、2年生前期では大学の専門的な学修に向けての基礎を築くための演習を行います。

本コースの主な目的は異文化間コミュニケーション能力の育成に必須の「多様性を尊重し、他者との違いに共感する力」を身につけることです。「異文化間コミュニケーション」と聞くと、皆さんは外国語による言語コミュニケーションや海外交流を想像するかもしれませんが、それはほんの一部に過ぎません。同じ日本人でも文化的背景は同じではありません。例えば、年長者と若者、社会人と学生というように、私たちは日々、自分とは文化的背景の異なる人々と生活を共にしています。自分とは異なる考え方や価値観を持つ他者とのように向き合い、共に生きていくのかを考えることすべてが異文化間コミュニケーションであると言っても過言ではないでしょう。また、昨今の企業が求める「コミュニケーション能力」とは「良好な人間関係を築くこと」であるとも言われます。その意味でも「異文化間コミュニケーション」について学習することの意義は皆さんの将来にとってきつと役立つことでしょう。なお、授業ではビジネスマナーやビジネス心理学の理論も扱います。

到達目標

(1) 多様な視点から物事を考察できるようになる。
(2) 素直な心でわたしたち、ひとり一人の中に存在する「違い」に対して寛容な態度を培うことができる。
(3) 自己(自文化)理解と他者(異文化)理解を深めることができる。
(4) コミュニケーションおよび異文化間コミュニケーションの理論について理解を深めることができる。
(5) ビジネス心理学の理論について理解を深めることができる。
(6) 文献調査、レジュマレポート作成を通じて大学生として必要なアカデミックスキルを身につけることができる。

提出課題

授業内活動の振り返りを目的とした「振り返りシート」を執筆し、提出する。予習が必要な場合は、別途、課題を課す。発表の課題がある。適宜レポートを提出する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

授業中に講評・解説する。

評価の基準

平常点、中間期、期末期のさまざまな課題によって、総合的に評価する。詳細については第1回目の授業で説明する。

履修にあたっての注意・助言他

この演習は、2年後期から始まる「研究演習Ⅰ(研究演習Ⅰ・卒業研究Ⅰ)の準備演習となるものです。専門的内容とともに、演習が必要となる基礎的な方法を学びますので、是非とも履修し、今後の研究活動に備えてください。出欠の扱い等、履修における注意事項については第1回目の授業で説明します。

教科書	.テキストや参考文献については、クラスを担当する教員から案内がありますので、指示に従ってください。				

プリント資料及び参考文献

Ryuka Portalの「講義連絡」に適宜、指示する。

授業計画

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、このクラスではオンデマンド型の授業を実施することになりましたので、講師やクラスメートとの生のコミュニケーションについては実施することができません。そのために、コースイダックスで示した内容から大幅に変更を余儀なくされることを了承してください。ですが、そのような状況でも、「振り返りシート」をはじめとする受講生からの考察や意見を授業で共有する、各自で発表動画を作成してもらい、授業で共有する機会を設ける等、何らかの形で受講生同士のコミュニケーションを実施する予定です。

授業形態(アクティブ・ラーニング)	
○ ア: PBL(課題解決型学習)	○ イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

この授業科目は2単位ですが、2単位に必要な学修総時間は90時間と決められています。90時間の内訳は授業で30時間(2時間×15回)、予習・復習で60時間(4時間×15回)です。予習・復習については各演習担当者が演習概要等で指示します。授業時間外で90時間の学修を達成できるように主体的・積極的に取り組んでください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との視点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創出することができる。人間の精神機能と心理学の研究方法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に対応する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面と心理学を応用することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

オンライン授業は動画配信型で実施します。授業動画のアップロードや閲覧URL、配布資料は、RyukaPortal「講義連絡」を通じて連絡します。別のアプリを使用する場合もありますが、その場合は授業内で案内します。 「振り返りシート」や各自の動画課題に対する他の受講生からのフィードバックなどによって、可能な限りの双方向授業を目指します。

実務経験の有無及び活用

備考

受講に際しては、インターネットにつながるPC、タブレット、スマートフォンを利用してください。自分の画面を表示して作成したパワーポイント資料による動画課題を提出してもらうことがありますが、カメラ付きのPC、タブレットの利用を推奨します。動画以外の課題については、必ずMicrosoft Wordで提出してください。写真やテキストでは受理しないので、こちらも準備をしておいてください。教材はパワーポイントのビデオ、音源ファイル、PDF等でRyukaPortal「講義連絡」にアップロードしますので、学内アドレス、パスワードを確認しておいてください。授業に関するすべての連絡は「講義連絡」を通じて行いますので、必ず確認してください。